

# 結碧沖繩

第 71 号

編集・発行



社会福祉法人  
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804  
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1  
TEL: 098-884-3173 (代) FAX: 098-882-5688

mail: o.fukusi@okinawa-j.jp HP: http://www.okinawa-j.jp/



平成 28 年度新任職員研修の様子



## 新任職員を迎えて

理事長 金城 敏彦  
きんじょう としひこ

大暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。当事業団の事業運営につきまして、日頃よりご理解とご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、当法人でも4月1日付で27名の新採用職員を迎えました。沖縄県全域で福祉事業を展開する沖縄県社会福祉事業団に決意を持って入職した皆さんを心より歓迎致します。

私も還暦を過ぎ、介護職として入職した34年前の20代の頃に施設利用者のためにもっと努力しておけば良かった、自分を追い込んでいろいろなこと挑戦していれば良かったと、振り返って反省することばかりです。皆さんにはこの時期を大切に、挑戦し続けてもらいたいと思います。挑戦するにも、仕事、趣味、家庭などいろいろなテーマがあります。仕事は一生涯挑戦する重要なメインテーマになるはず。このメ

インターンに精一杯挑戦できないと、人生は満足できないものになると思います。新任職員の時期には下積みみの時期があり、先輩職員、利用者の皆様、福祉の職場・仕事そのものから学ぶことがたくさんあります。その時期を嫌々過ごすか、積極的に自分を磨くために過ごすかで、仕事への姿勢が変わります。ぜひ自分を磨いて、頑張ってもらいたいと思います。

当法人は、福祉事業を通して利用者をはじめ、提供するサービスによって、地域の方々に貢献できる人材を育成し地域に開かれた法人を目指しています。私たちは、地域の人々が幸せになるためにこの福祉事業を展開しています。正しく、明るく、元気に地域の中の人々に貢献していきたいという思いです。皆さんも同じ思いを持って、一緒に頑張ります。



**平成27年度 資金収支計算書**

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
事業活動	事業活動収入計	4,155,399
	事業活動支出計	3,855,585
	事業活動資金収支差額	<b>299,814</b>
施設整備等	施設整備等収入計	454,271
	施設整備等支出計	635,122
	施設整備等資金収支差額	<b>△180,851</b>
その他の活動	その他の活動収入計	624,905
	その他の活動支出計	652,567
	その他の活動資金収支差額	<b>△ 27,662</b>
当期資金収支差額		<b>91,301</b>

前期末支払資金残高	<b>810,340</b>
当期末支払資金残高	<b>901,641</b>

**平成27年度 事業活動計算書**

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日 (単位:千円)

勘定科目		決算額
大区分		
サービス活動	サービス活動収益計	4,090,519
	サービス活動費用計	3,969,437
	サービス活動増減差額	<b>121,082</b>
サービス活動外	サービス活動外収益計	64,880
	サービス活動外費用計	13
	サービス活動外増減差額	<b>64,867</b>
経常増減差額		<b>185,949</b>
特別増減	特別収益計	493,834
	特別費用計	450,348
	特別増減差額	<b>43,486</b>
経常増減差額		<b>229,435</b>
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	2,159,690
	当期末繰越活動増減差額	2,389,125
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	587,928
	その他の積立金積立額	647,762
次期繰越活動増減差額		<b>2,329,291</b>

**平成27年度 貸借対照表**

平成28年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
科目	当年度末	科目	当年度末
流動資産	1,675,574	流動負債	913,397
		固定負債	637,255
徴収不能引当金	△15,069	負債の部計	1,550,652
固定資産	8,982,768	純資産の部	
基本財産	6,619,448	基本金	10,000
		国庫補助金等特別積立金	5,424,813
その他の固定資産	2,363,319	その他の積立金	1,343,586
		次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	2,329,291 (229,435)
		純資産の部計	9,107,690
資産の部計	10,658,342	負債及び純資産の部計	10,658,342

**月次実績会議について**

常務理事兼事務局長 石川 俊雄  
いしかわ としお

経営理念に掲げる「経営基盤の強化」を図るためには、毎月の事業実績把握は欠かせないとの認識からスタートしたのが法人事務局での「実績会議」です。

同会議では、構成員である各施設職員に対して、自施設のみでの経営ではなく、法人全体の経営を担う立場で会議に出席すること、全事業所から月単位で報告される実績情報を把握して課題を抽出し、解決に向けた検討を行い、解決策を決定すること、決定事項の進捗管理と効果検証を行う事を基本姿勢として求めています。

毎月の実績として全事業所に求める情報は、①収支情報(収入、支出、入院・欠員・外泊状況、利用率、未収金、食料単価等)、②利用者情報(介護度別人員、苦情・要望・面会状況、介護事故等)、③削減情報(電気・水道・ガス等)があり、法人事務局は寄せられた情報を事業種別毎に区分し、数値のグラフ化、同類事業所間の比較、前年度比較等の資料を作成し会議に提出します。

会議の効果として、各事業所単位で行っていた調理・警備・消耗品・備品購入等の入札を事務局で一括入札することで経費が大きく削減され、電気水道料金についても法人全体が一斉に取り組むことで1割削減を達成し、これらの結果が職員に経営を意識させました。その後は、利用者サービスに直接関わる効果も生まれ、介護施設間で数値差が大きかった入院数については、実績会議において、嘱託医師との連携や看護体制、口腔ケア、栄養管理や水分摂取量、介護技法など、幅広い検証が行われたことで、各事業所での現状確認と解決に向けた取り組みが促進され、サービスの質の向上と法人内事業所でのサービスの標準化に繋がってまいりました。

これまで9年間の実績会議開催により一定の効果をあげることが出来ましたが、現状は報酬改定・介護人材の確保困難等厳しい環境にあることから実績会議のより一層の充実が必要です。会議構成員も当初の施設長からより実務者の会計責任者へ変更してまいりましたが、今後は、事業所単位での管理を更に細分化した情報も収集し経営基盤の強化を図りたいと考えています。



# 平成27年度 事業実績報告

(平成27年度事業実績報告の主な内容)

## 1. 利用者に対する姿勢

### (1) 人権の尊重

#### ① 経営理念・経営方針等の周知

事務局は、経営対策監会議において施設長へ経営理念・経営方針の周知を図り、各施設では全職員が同じ価値観・方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・職員ヒヤリング等で職員周知を図った。

#### ② 職員ヒヤリングの実施

管理職が半年単位で職員ヒヤリングを実施し、倫理綱領自己評価の確認と改善、業務上での悩みや職場内の人間関係等について聴き取り、課題がある場合、職場全体で改善に当たる等職場環境の改善に取り組んだ。

### (2) サービスの質の向上

#### ① 標準的業務の確立

サービスの質の向上及び人事考課制度の導入に向けては、施設種別毎の業務の標準化が欠かせないことから学習会を開催し、課長・主任を中心に業務標準書を作成した。28年度に仮運用を行い評価を行った上で本格導入を図る計画である。

#### ② 第三者による評価の受審

児童養護施設は第三者による評価が3年に1回義務づけられており、漲水学園が受審した。評価が高かった点は、学習・進学進路支援の取組、適切なアセスメントによる自立支援計画と記録が確立されていること。改善すべき事項は、保育士等の安定確保と育成、居

室を含む施設内の清掃について挙げられた。

#### ③ ICTを活用した介護サービスの導入

法人が宮古島市から受託した「ICTを活用した介護サービスの産業化を通じたまちづくり事業」を宮古厚生園で実施し、介護員間での情報の共有が進みこれまでとは違う方法で利用者支援に積極的に当たる姿勢が出てきた。

### (3) 社会、地域との関係の継続

#### ① 地域での生活を支えるサービスの充実

北嶺学園は、居宅介護事業を開始し相談支援事業所と連携を図りながら障害者の在宅福祉の向上に努めた。あけぼの学園では、グループホームを4月に開所したことにより、施設利用者の地域移行が実現した。

### 2. 社会に対する姿勢

#### (1) 地域福祉の促進

① 地域に開かれた法人づくり及び地域との繋がり構築  
沖縄療育園は経塚自治会に向けて管理栄養士、言語聴覚士による生活習慣予防・接触機能に関する講話と調理実習を行った。

#### (2) 公益的取組の推進

① 事務局は、漲水学園を退所する児童の進学・就職を支える要綱の制定と基金を創設した。27年度は大学を卒業する者1名、高校を卒業する者2名を支援した。

### (3) 説明責任の徹底

① 苦情・評価等の公表・説明

各施設は、寄せられた苦情・要望等に対する対応策を施設内に掲示、事務局は各施設に寄せられた苦情・要望等に関する内容をホームページで公表した。

### 3. 人材に対する姿勢

#### (1) 総合的人材マネジメントの実現

経営理念である利用者本位のサービスの質の向上・経営基盤の強化・地域貢献を実現するためには、職員が成長する環境として、人事考課制度・研修制度・キャリアパス制度・職能等級別制度を構築する必要があることから、専門家のコンサルティングを受けながら課題・対策を整理し28年度からの仮運用に向け業務標準書・評価・職能等級賃金働き方の指針等の案を作成した。

#### (2) 職員処遇の向上

① 待遇の現状把握、分析、課題抽出及び改善計画の策定、介護員の処遇改善加算を活用し、介護・障害施設の正規・嘱託介護員へ処遇改善手当を支給し賃金を改善した。

#### (3) 働きがいのある職場

① 適正な仕事量と内容  
各職員の事務分掌と実際の業務が合致しているか検証を行い、適正な業務配分・業務見直しを図ると共に、必要に応じ業務実態に沿った対応として短時間労働の介護員等の雇入を行った。

#### (4) 働きがいのある職場

① 経営理念を実現するためには人材育成が最重要との視点から、年度当初で計画した階層別・職種・課題別・各施設に共通する基礎的研修を実施すると共

に、総合的人材育成システムとしての人事考課制度・研修制度・キャリアパス制度・職能等級制度の構築に向けた検討・研修を実施した。

### 4. マネジメントに対する姿勢

#### (1) 法令遵守の徹底

① ルールの明確化と適切な認識  
各施設は、法令、定款、規定、業務手順、社会的ルール等に遵守すべきルールを正しく認識するよう職場内研修や職務会等において職員へ周知した。

#### (2) 組織統治の確立

① 実績会議及び経営対策監会議の開催  
事務局は、経営対策監会議を年5回、実績会議を年6回開催し、法人の課題について審議を行い課題解決を図った。

#### (3) 財務基盤の安定

① 養護老人ホームの在り方に関する検討  
事務局は、措置が減少し空室があることから沖縄県と協議を行い、具志川厚生園で視覚障害者受入のため県負担により10人分の居室と浴室等を改修することで合意した。

#### (4) 経営管理者の役割の遂行

① 将来性・継続性を見通した経営管理  
事務局及び各施設の管理者は、法人の現状と将来像、方針等を職場内研修や職務会等で周知した。

#### ② 利害関係者との関係

事務局及び各施設は、利害関係にある取引業者等と公平かつ適切な関係を保つため確実に見積書を徴すると共に、随意契約を行う場合は理由を明確にした。



施設長就任あいさつ



うるま婦人寮  
寮長 藤田 勝己

長いブランクを経て、4月1日、うるま婦人寮に赴任しました藤田です。よろしくお願い致します。よく苗字から「どちらの出身ですか？」と聞かれますが、生まれも育ちも与那城村（現うるま市）平安座で純粋のシマールグアアです。

婦人寮は、寮の改築工事が完了し、引越しや監事監査等の忙しさの中で慌ただしく2ヶ月が過ぎて行きました。今は、外壁工事が8月までの期間で進行中。寮の引越しの際は事務局・各施設から応援を頂きスムーズに終わることが出来ましたことにお礼申し上げます。有り難うございました。



具志川厚生園  
園長 金城 清安

4月1日、正面通路からそびえ立つ具志川厚生園は、園長という重責を感じさせるには十分な風格を付ま

せ、改めて身を引き締められる中からスタートしました。32年余の行政経験を如何にして実践していくか思いは2か月たった今も頭の中を錯綜しています。介護保険制度が毎年のように変わり、介護業界の現状が連日のように報道される中、当園の課題を一つでも多く解決し、利用者に愛され、そして地域に親しまれる施設づくりに努めていきたいと決意を新たにしております。事業団の経営理念を踏まえながら、職員とともに地域における老人福祉施設の拠点施設としての役割を今一度自覚し、老体に鞭を打ち、粉骨砕身頑張っていきたいと思えます。



いしみな救護園  
園長 川原 伸壮

この度、縁あっていしみな救護園長に就任した川原です。これまで県において養護施設や相談所など主に児童福祉を経験してきました。

昨今は、福祉や医療の現場ではどこも人手が足りておらず、当園でも運営体制の面では苦しい状況が続いています。国は介護人材の確保対策など様々な方針を打ち出していますが、実感としてはまだまだといった印象です。そのような中であっても、日夜懸命に業務に取り組んでいる職員の方には本当に頭の下がる思いです。

「福祉は人なり」と言いますが、人材の確保・育成も園長としての大事な役割だと認識しています。私の拙い行政経験が少しでも職員の参考になればと願っております。精一杯努めさせていただきますので、ゆたしくうにげーさびら！



都屋の里  
園長 儀間 敏光

私は、読谷村役場に40年余勤務し、行政全般の業務に精励してきましたが、前園長及び事業団のお誘いもあり、都屋の里園長並びに経営対策監として就任いたしました。

さて、当事業団は利用者本位のサービスの質の向上、経営基盤の強化、地域貢献等を経営理念としています。私は、その理念を常に意識し前園長が築き上げてきた職員と利用者の信頼関係を更に向上させて参ります。

また、利用者が安全で安心して日常生活が送れるためには職員の団結は欠かせないものと考えます。そのためには職種間の連携を密にしていきたいです。

私は、外部起用としての不安も若干ありますが、金城理事長を始め諸先輩方のアドバイスも受けながら職務を全うして参りますので宜しくお願ひ申し上げます。



漲水・あけぼの学園  
園長 平良 吉昭

この度の人事異動で、「漲水・あけぼの学園」の施設長を拝命いたしました。施設長として携わることの責任の重みを痛感しております。

漲水・あけぼの学園は平成24年7月に改築され、白色を基調として快適に生活出来るよう工夫されたモダンな建物に大変身しました。「将来（夢）を語り合えるような温かいホームにしたい！」との思いに駆られる素晴らしい住環境となっております。

さて、児童養護において国の方針は家庭的養護を推進するため、出来る限り小規模で家庭的な養育環境形態への移行が進められています。また、障がい者福祉サービスでは障がい者総合支援法施行に伴い、障害の種別にかかわらず必要なサービスを利用できるよう、サービス利用の仕組みが一元化されたことで、利用者ニーズ、地域ニーズを把握し地域から必要とされる事業展開が求められています。このように、社会福祉サービスの転換期を踏まえ、施設では「安心して社会に羽ばたいていけるよう支援体制の強化」と「充実した活動ができる場」の実現を目指して、職員は児童・利用者の声に寄り添い、楽しく生き甲斐をもって働ける施設運営に取り組んでまいりたいと思えます。